

コスモス健康通信

夏に起こりやすい皮膚トラブル

子供に起こりやすい“とびひ”とは？

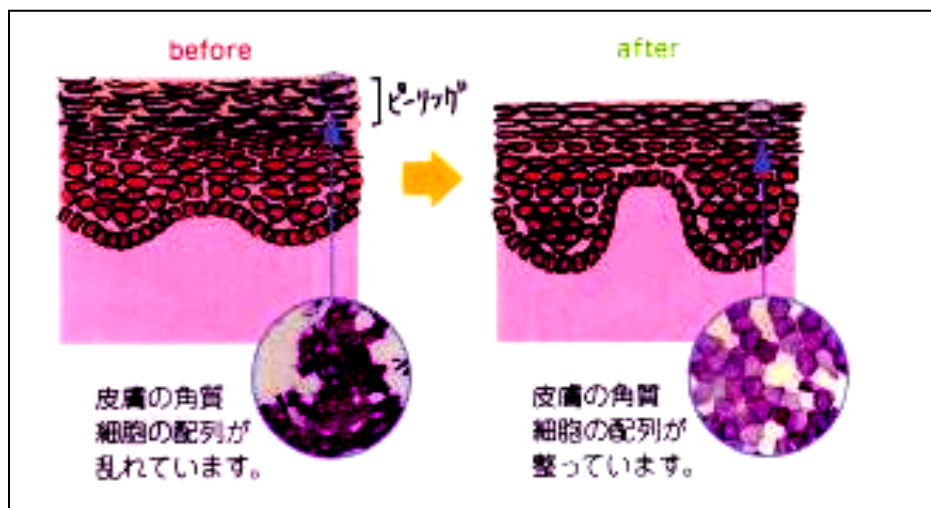
夏になると子供に多く見られる皮膚の病気に、あせもや湿疹の悪化、虫さされなどがありますが、それを掻き壊した患部から出た汁により、皮膚の他の部位に次々と広がっていき、兄弟などにうつるととてもやっかいな皮膚疾患を“とびひ”と呼びます。非常に感染力が強く、他の人にうつりやすいので注意が必要です。皮膚を清潔に保ち、爪を短く切るなどの予防をしましょう。これらの症状は、ひどくなる前に早めに皮膚科を受診し治療しましょう。



皮膚のトラブル解消にケミカルピーリング

最近、雑誌や広告などでケミカルピーリングという言葉を見られることも多いでしょう。ケミカルピーリングとは、皮膚に薬剤(グリコール酸やサリチル酸)などをぬり、その作用により皮膚の表面(角質の一部)を取り除く治療法です。皮膚の再生を促し、紫外線や老化、ストレスなどによる、肌のくすみ、小じわ、肌の老化予防(アンチエイジング)、しみ、ニキビ、ニキビ痕などの美容的改善を目的としています。

ケミカルピーリングイメージ図



“とびひ”におけるQ&A

Q. 症状はどんなものがありますか？

- A. 初めは赤い斑点ができ、まもなく水ぶくれ(水疱)となります。
水疱は容易に破れて赤むけ(びらん)となり、その縁から拡大したり、周辺に新しい病変ができたりします。これらの多くは、ブドウ球菌という細菌によるものです。比較的少ないですが、“かさぶた”を主症状とする“とびひ”もあり、これは化膿連鎖球菌という細菌が主たる原因菌で、熱が出ることもあります。

“とびひ”の症状



Q. 治療方法は？

- A. 薬を塗り、抗生物質やかゆみ止めの薬を内服します。数日で乾燥し治りますが、十分に治らないまま治療を中止すると再発することもあります。また最近ではMRSAという抗生物質がなかなか効きにくい細菌による“とびひ”も増えています。
* MRSA: 抗生物質「メチシリン」に対する薬剤耐性を獲得した黄色ブドウ球菌の意味で、実際は多くの抗生物質に耐性を示す多剤耐性菌です。

Q. 生活上の注意にはどんなものがありますか？

- A. ① 水ぶくれや他の部位や他の人に触らないよう心がけましょう。患部をガーゼで覆っておくと良いでしょう。
② きちんと薬を飲み、途中で薬をやめたりしないようにしましょう。薬を塗るだけでは治りにくいことが多いです。
③ “とびひ”は学校伝染病ではありませんが、プールや登園禁止の場合があります。医師に相談しましょう。
④ 虫に刺されたり、転んでけがをしたりしたところから“とびひ”になることもあります。早めに治療しましょう。

ケミカルピーリングにおけるQ&A

Q. どんな症状に効きますか？

- A. ニキビ: 高い改善効果が期待できます。毛孔が詰まるのを防ぎ、毛のうを詰まらせている面疱にも有効です。
しみ: 肝斑、炎症後色素沈着、老人性色素斑などを薄くします。
しわ: 小じわを目立たなくします。

ケミカルピーリング施術例 (にきび: 30歳女性)

効果は、患者さまの肌の状態によって異なります。



グリコール酸 4回施術後

Q. 副作用はありますか？

- A. 薬剤を塗っている時、一時的に肌がピリピリしますが、さほど痛むというほどではありません。
ケミカルピーリングをした後は、赤み、水疱が出る場合がありますが、2~3日で消失し、すぐに化粧ができます。

Q. どこでいくらで受けることができますか？

- A. ケミカルピーリングは、皮膚科や形成外科の一部で受けることができますが、保険診療ではありませんので、費用は各施設で異なります。